

Minna no Nihongo

みんなの 日本語

中級I本冊

CD付



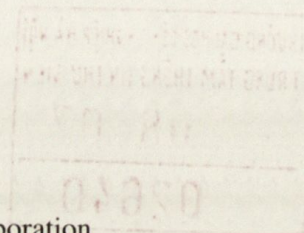
スリーイーネットワーク

Minna no Nihongo

みんなの 日本語

中級I本冊

スリーイーネットワーク



© 2008 by 3A Corporation

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior written permission of the Publisher.

Published by 3A Corporation.

Trusty Kojimachi Bldg., 2F, 4, Kojimachi 3-Chome, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083,
Japan

ISBN 978-4-88319-468-1 C0081

First published 2008

Printed in Japan

はじめに

『みんなの日本語 中級 I』は『みんなの日本語初級 I・II』に続く総合的な日本語教材として企画、編集されたものです。『みんなの日本語初級』(初版 1998) は初めて日本語を学習する一般成人を対象に短期間で初級の日本語能力が身に付けられるように開発された教材ですが、当初学習対象と想定していた一般成人のほか、進学を目的とした就学生や来日留学生のための初級日本語教材としても用いられ、また、日本国内だけでなく海外でも使われています。

一方、日本の少子化と国際交流の活発化に伴い、日本に定住し、また就労を目的とする外国人も増え続けており、そうした人たちにも学びやすい教科書として『みんなの日本語』が広く使われています。

このように学習者の多様化や教科書のニーズが広がる中、『みんなの日本語初級 I・II』に続く中級教材を求めるご要望を各方面よりいただきました。本書はその要望に応えるべく執筆、試用、検討を積み重ねて編集、ここに皆様にお届けするものです。

初級日本語は、日本語によるコミュニケーションを必要としている人たちが自分の意思を相手に伝えること、または相手が言ったことを理解できるということが求められますが、中級ではそれに加えて、日本の文化や習慣などを理解するために必要な内容も求められるレベルだと考えます。本書は、そのような学習者にも十分な助けとなりうる内容を用意しました。

最後に、本書の編纂に当たりましては各方面からのご意見や、授業での試用など多大なご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。当社は、これからも多文化共生社会で必要とされる教材の開発、出版などを通じて、人と人とのネットワークを広げてまいりたいと考えております。どうか一層のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

2008 年 10 月

株式会社スリーエーネットワーク

会長 高井道博

はんれい 凡例

I. 教科書の構成

『みんなの日本語 中級 I』は「本冊 (CD 付)」、「翻訳・文法解説 (各国語版)」よりなる。
「翻訳・文法解説 (各国語版)」は英語版のほか、順次刊行していく予定である。

この教科書は、中級前期 (初級から中級への橋渡し) に必要な「話す・聞く」、「読む・書く」の総合的な言語能力と自ら学ぼうとする力を培うことを目的としている。

『みんなの日本語 中級』は本書『中級 I』と、後に続く『中級 II』の二冊で日本語学習の中級段階が習得できるようになっている。

II. 教科書の内容及び使い方

1. 「本冊 (CD 付)」

(1) 本課

『みんなの日本語 中級 I』 (全 12 課) は『みんなの日本語 初級 I・II』 (全 50 課) に続くもので、内容は以下のように分けられる。

1) 文法・練習

各課の文法項目を「文型」で提示し、文法用語を使わない。

接続部分が「文」に相当する場合は「…」で示す。

例: 「…ということだ」 (第 2 課)

接続部分が名詞などの「語句」に相当する場合は「～」で示す。

例: 「～を～と言う」 (第 1 課)

ただし、接続部分が「文」であっても、末尾の形が「て形」「た形」「辞書形」「たら形」「ている形」「ば形」など、特定の形を要求する場合は「～」で示す。

例: 「～たら、～た」 (第 2 課)

文法項目 (文型) が実際にどのように用いられているか、例文や談話の形で示す。運用力を養う「練習」を設け、場面や状況を必要とするものには、イラストを用意した。文型練習を踏まえつつも発表を促し、話題を展開させるこれらの練習が会話および読解の実践力を強化する。

2) 話す・聞く

日常生活の中から交渉会話を中心にコミュニケーション場面を選定し、モデル会話を構成した。学習者の興味と学習意欲に働きかけながら、練習の段階を踏み、暗記に頼ることなく最終的に目標の会話ができるようになる。登場人物も『みんなの日本語初級 I・II』で活躍した仲間たちがそれぞれの場面で、会話を展開する。

1. やってみましょう

目標会話への導入。設問に従い、与えられた場面、状況の会話を自分のことばで話す。

2. 聞いてみましょう

CD「会話」で、各課の「聞くポイント」や表現を注意深く聴く。

3. もう一度聞きましょう

CDを聞きながら、空欄を埋め、「会話」を完成する（聞き方は、適宜学習者の理解度に応じて行う）。

4. 言ってみましょう

「会話」の発音やイントネーションに注意して、CDの通りに言うみる。

5. 練習をしましょう

「会話」に使われている、表現や語句を練習する。

6. 会話をしましょう

イラストを見ながら「会話」を練習し、再生する。

7. チャレンジしましょう

与えられた状況と人間関係を把握し、その課の目標である交渉会話をやる。

3) 読む・書く

「読みましょう」には学習者が興味を持って、楽しみながら読めるものとして12の「読み物」を用意した。

1. 考えてみましょう

読む前の準備として、「読み物」本文の話題に関する知識を活性化させる。

2. ことばをチェックしましょう

「読み物」を理解するのに必要なキーワードを提示（新出語も含まれ

る)。意味がわからない語は辞書を引くなどして確認する。

3. 読みましょう

各課の「読み物」には、「読むときのポイント」として、内容を理解するために必要な読み方のストラテジーやスキルをタスクとして提示した。大意の把握が的確に迅速にできるようになることを目指す。

「読む」という活動には、「黙読」と「音読」の二つの方法があるが、ここでは後者も大切だと考え、CDで具体的音声表現の実例を用意した。

4. 答えましょう

「読むときのポイント」のタスクが的確に行われたかどうかを確認する。必要に応じて、詳細な内容に関する質問も用意されている。

5. チャレンジしましょう

「読み物」の内容に関連して、学習者の身近な出来事や体験などをアウトプット（話す・書く）できるようになることを目指す。

4) 問題

「問題」には、聞き取り（）CDマークの箇所）、文法、語彙の問題がある。聞き取りには、CDを聞いて短い質問に答える問題と、短い会話のやり取りを聞いて要点を把握する問題がある。どちらもその課で習った学習項目を応用し、聞き取りの力の強化を図るものである。文法の問題では、各課の新出の「文型」を確認し、語彙の問題では特に機能語の定着と運用を図る。

(2) 学習項目

1) 「話す・聞く」

① 「会話」のタイトル

② 目標（機能）

③ 「話す・聞く」に提出された文法項目（文型）（42項目）

④ *：補足項目（凡例「2. 翻訳・文法解説」の項参照）（9項目）

2) 「読む・書く」

① 「読み物」のタイトル

② 目標（ストラテジー）

③ 「読む・書く」に提出された文法項目（文型）（53項目）

④ *：補足項目（凡例「2. 翻訳・文法解説」の項参照）（8項目）

(3) 表記と振り仮名

- 1) 漢字は原則として、「常用漢字表」と「付表」による。
 - ① 「熟字訓」(2字以上の漢字の組み合わせ、特別な読み方をするもの)のうち、「常用漢字表」の「付表」に示されるものは、漢字を用いた。
例：友達、眼鏡、二十歳、風邪
 - ② 国名・地名などの固有名詞、または芸能・文化・家族の呼称などの語には、「常用漢字表」にない漢字や音訓も用いた。
例：厳島神社、夏目漱石、姪
- 2) 「常用漢字表」および「付表」に示される漢字であっても、学習者の読みやすさを配慮して、仮名書きにしたものがある。
例：ある(有る、在る)、いまさら(今更)、さまざま(様々)
- 3) 数字は原則として算用数字を用いた。
例：9時、10月2日、90歳
ただし、次のような場合は漢数字を使用した。
例：一人で、一戸建て、一日中
- 4) 『みんなの日本語 中級 I』では、本冊の漢字にはすべて振り仮名を付すことを基本とする。

(4) 索引

- 1) 新出語(約910語)
- 2) 会話表現(約50語)
- 3) 漢字(「読み物」全12課に出現した常用漢字のうち、初級相当学習漢字を除いた315字。)

(5) 解答

- 1) 解答
 - ① 「文法・練習」「話す・聞く」「読む・書く」
 - ② 「問題」(聞き取り問題のスキプトも含む。)(問題によっては学習者の背景によりさまざまな解答が存在する。ここでは一つの解答例を掲げる。)
- 2) 「話す・聞く」会話スキプト
- 3) CDの内容

(6) CD

CDには、①「話す・聞く」の「会話」、②「読む・書く」の本文、「読み物」③「問題」の「聞き取り」部分が収録されている。アクセントやイントネーションに注意して一語一語の発音を学ぶだけではなく、「会話」や練習では、自然な速さの日本語に慣れ、会話の流れの中で要点を聞き取り、問題に対処できる力を養う。

また、「読む・書く」の本文を聴くときは、文章のジャンルによって異なる日本語の音声による表現の豊かさを味わう。文章の中のどの部分がどう読まれているか、それにはどんなリズムや高さの変化が伴うかなどについて注目する。CDで確認することにより、学習者が自分の考えをまとめて、話したり書いたり（アウトプット）するときの総合的な運用能力の基本を養う。

2. 「翻訳・文法解説（各国語版）」（分冊・別売）

第1課から第12課まで、以下のような構成になっている。

(1) 新出語とその訳

新出語・会話表現・固有名詞の提出は、各課とも出現順に従う。

(2) 文法解説

1) 文法項目

各課の文法項目（文型）は、中級段階の学習者に必要とされる文法のシラバスをもとに組み立てられたものである。

2) 文法解説 [各国語]

文法説明は、学習者にとって必要最小限のものとし、例文によって、その意味・機能をより明確にし、いつ・どこで実際の場面で使えるかを示す。

3) 接続と記号

「本冊」では、文法項目を文型で提示し、文法用語は使用せず例文で示し、接続の形がわかるように配慮している。

「文法解説（各国語版）」では、学習者が自分で接続の形を確認できるように、全ての接続の形を示している。また、必要に応じて文法用語を使用している。

4) 参照・補足項目

第二言語というものは、初級からの積み上げであると同時に、スパイラルに（新しい日本語の文法を学ぶときにも、既習の内容を巻き込みながら繰り返すことによって）習得されるものである。『みんなの日本語初級』で学ん